

○ 京都市長賞

「失敬千万」

加藤 桂 さん（愛知県春日井市）



(応募者コメント)

ふとした言葉で相手が傷付く。相手への思いやりが大事。

○ 京都市教育長賞

「個鶴情報」

中西優多朗 さん（京都府相楽郡精華町）



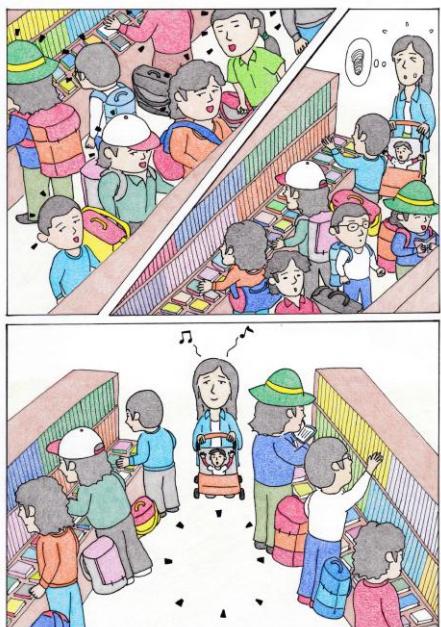
(応募者コメント)

個人情報が守られることの大切さを、昔話で表現しました。

○ 優秀賞

「以心伝心」

石井 哲 さん（秋田市）



(応募者コメント)

本屋でベビーカーを押した女性が通路を通りましたが、人がいっぱいに広がったり、バッグを背負っていたりして通れずに困っています。しかし、通路にいる人たちが女性に気が付くと、バッグを下ろし邪魔にならないようにと下に置いたり、本棚寄りに身を寄せて通路を空けたところです。

○ 優秀賞

「千手必生」

伊藤 文人 さん（神奈川県平塚市）



(応募者コメント)

もちろん「先手必勝」の音から作りました造語です。がけから落ちそくなっている子供をたくさんの手が助けようとしています。千手の「千」は「多くの」を象徴的に表現したものです。困っている人を多くの人の善意が救う世の中になって欲しいという思いをこめてマンガを描きました。

○ 優秀賞

「危機一髪」

中村 恵子 さん（東京都中野区）



(応募者コメント)

スマホに夢中のお母さん、赤ちゃんがダッコバンドから落ちちゃう！

○ 佳作

「受愛授愛」

奥野佳菜子 さん (京都市上京区)



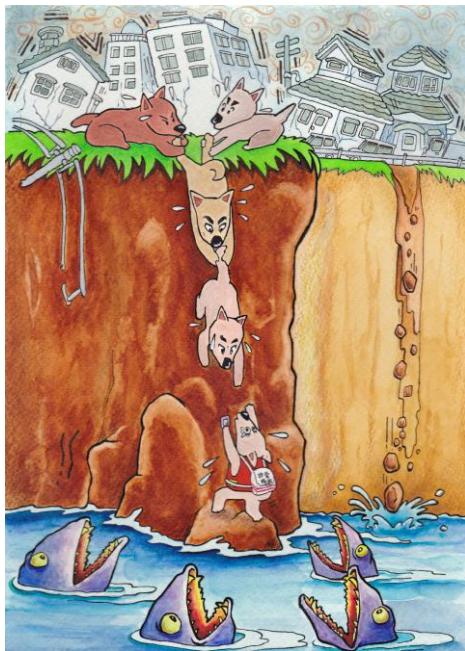
(応募者コメント)

誰かに愛された分、その分誰かを愛することができればいいねと思いました。

○ 佳作

「自助共助」

岩本しんじ さん (福岡県大牟田市)



(応募者コメント)

非常事態に備えて準備したりするのは自助。でも、災害の前に一人の力は無力。そんなときには、みんなの力、共助が頼みになる…。自然災害から人権を守るのはやはり「人の優しさ・温かさ」だと思って描きました。

○ 佳作

「妄信差別」

大沼 猛光 さん (東京都板橋区)



(応募者コメント)

「×××のくせに」など、何気なく使ってしまう言葉に、傷付けるものがある。

○ 佳作

「傷心人語」

宮本ひかり さん (滋賀県野洲市)



(応募者コメント)

言葉は刃物だから相手の立場を思いやる言葉を遣つていかなくてはならない。

○ 佳作

「未来遺産」

伊藤 兼秀 さん (長崎市)



(応募者コメント)

地球の資源をどれ位未来の人類に残せるか、負の遺産をどれだけ減らせるかが私たち現代人に問われています。

○ 佳作

「悪逆無道」

上田 樹 さん (香川県高松市)



(応募者コメント)

ネットでの交流において、中年男性が女子高生に成り済まして男子高生をだます様子を描きました。

○ 佳作

「無無関心」

岩田 陽介 さん (奈良市)



(応募者コメント)

「人権について」は、多くの人が普段の生活の中で余り考えないことだと思います。そのようなことを多くの人に考えてもらう場合、まず、関心を持ってもらうこと、つまり、無関心をなくすことが大事なのではないかと考えました。

○ 佳作

「以心伝親」

長澤 紗子 さん (京都市南区)



(応募者コメント)

以心伝心の「心」を「親」にして、何も言わなくともお年寄りに席を譲るという親切さを表しました。

○ 奨励賞

「異人伝心」

吉元 恵未 さん (京都市右京区)



(応募者コメント)

「異人」とは昔の言い方で外国人という意味です。以心伝心は話さなくても、心で思いを伝えられるという意味なので、差別とかをせずに分かり合えたらいとと思いました。

○ 奨励賞

「異心伝心」

堂北 樹里 さん (京都市右京区)



(応募者コメント)

昔話では仲の良くない桃太郎と鬼ですが、面と向かって話をしてみると心が通じ合うこともあるということを表現しました。

○ 奨励賞

「吳越同舟」

高橋 直樹 さん (京都市北区)



(応募者コメント)

いつもは仲の悪いもの同士でも、いざというときになれば、助け合えるということを、猫とねずみを使って表しました。

○ 奨励賞

「和顔愛語」

西田 華奈 さん (京都市北区)



(応募者コメント)

一人ぼっちの子がいても、親しみやすい振る舞いで、寂しい顔をしていた友達がすてきな笑顔になるということを表現しました。